俳句·和歌·漢詩 仏教歳時記

第一部

春

【春】(陽春、三春、九春)〈三〉

ものであるが、一般における用例はこれよりも広い。とくに新 お、「新春」は新年の部に収録してある。 暦採用後は元日と立春の間が離れてしまったので、新しい年と いは二・三・四月をいう。これは中国の暦の伝統を受け継いだ いう意味の春と気候上の春が連続して訪れることになった。な 季語の分類からいうと、春は立春から立夏の前日まで、ある

晩春の総称、九春は春の九旬(九十日)の意味である。 ない。三春・九春も漢語的表現であるが、三春は初春・仲春・ 春・芳春などがあるが、俳句や和歌での用例はほとんど見られ 春を表わす言葉には、表題下に挙げたもの以外にも青陽・青

奈良の春十二神将剥げ尽せり 日くれたり三井寺下りる春の人 夏目漱石

寒山(寒山詩集「棲遅寒厳下」部分)

【花見】(花巡り、花の茶屋)〈晩〉

内にもつ寺社は多くの花見客で賑わう。 花に酔うのは、昔も今も変わらない風俗である。桜の名木を境 春の遊楽の第一は何といっても花見であろう。花に浮かれ

変わる。仏の教えが身に滲みる時である。→桜狩り への悲しみや表面的な美しさをもてはやすことへの虚しさへと しかし、桜の花の散りやすさに思いをはせる時、それは無常

二の尼の一の尼とふ花見哉 骸骨のうへを粧て花見かな 剃捨て花見の真似やひのき笠 一茶 鬼質 正闆子規

> 春たのし仏つとめも忘れがち 女身仏に春落剥のつづきをり 春寺の魚板のまなこくぼみたり 山寺春寂寥と故人言ひしごと 春の寺暮れてなほ踏む臼の音 門脇の大塵取や春の寺 森桂樹楼

ローソクは灯さず長し春の寺 蟇ないて唐招提寺春いづこ

水原秋桜子

[和歌] 野辺の色も春の匂ひもおしなべてい 西行(山家集)

法のみちあとふむかひはなけれども ぼのの空 寂蓮 (新古今) これやこのうき世の外の春ならむな すぶべき 西行(山家集) 花のいろに心をそめぬこの春やま ぞなる

にあひぬる 蓮生 (統拾遺)



[漢詩]

鶯は 柳梢に轉れども 声は尚 渋り 将謂ふ 南郊は 春 已に関りぬと雨余の微暑は 軽寒を雑ふれども 蝉は 槐樹に鳴けども 韻は猶 慳めり (雨余微暑雜軽寒 将謂南郊春已闌

をたづね求

逍遥すると **ウイメージ** 桜狩り

花見と同

初夏交加園

孟夏芒種の節

明極楚俊(明極楚俊遺稿「首夏即事」部分)

蝉鳴槐樹韻猶慳)

驚轉柳梢声尚渋

錫を杖いて独往還す 我れを率ゐて共に歓を成す。 野老 忽 我れを見 (孟夏芒種節 杖錫独往還

良寬 (良寬詩集「盂夏芒種節」部分) 率我共成歓)

野老忽見我

【施餓鬼】(水陸会、施食会、川施餓鬼、水灯会)〈初〉

をかけたりして死者を供養するものを流れ灌頂という。 笹竹に相当するもので、霊の依り代となるものである。ちなみ 院では毎日行なわれるべきものである。しかし、日本では盂蘭 水死者などを供養をするために川岸や舟の上で行なわれる施餓 あるという民俗信仰が施餓鬼と一致したためで、それゆえ盆供 盆会と習合して、盆の期間に行なわれることが多くなった。こ 鬼のことを川施餓鬼といい、水中に塔婆を立てたり、塔婆に水 に、曹洞宗では餓鬼という言葉を忌んで施食会と呼ぶ。また いる。施餓鬼棚には五色の幡が立てられるが、これは精霊棚の のための精霊棚と施餓鬼会の施餓鬼棚は構造や機能がよく似て れは盆には祖霊だけではなく、無縁の霊も供養しないと祟りが 餓鬼道に墜ちた霊に食物を施して功徳とする法会で、本来去



[俳句]

施がき棚の茶を汲みかへる 餓鬼の食雲もかかるな清目 施餓鬼舟はや龍王も浮ぶべ 準備と気ぜわしい日々が続く

皆拝め二見の七五三を年の暮 行年の庫裡の大炉の火絶えず 行としや空の名残を守谷迄 一茶 托鉢僧たちまち昏れむ年の暮





逝く年を告ぐごと父の墓に参る

小泉信泉

年ゆくや星座曼陀羅のごとくあり

石田波郷 高浜虚子

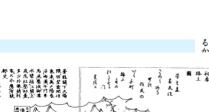
野見山朱鳥

山伏や箱根にか、る年の関 星野麦人

年暮れて我が世ふけゆく風の音に心の中のすさまじ きかな 紫式部 (紫式部集)

朝毎のあか井の水に年暮れてわが世のほどのくまれ 歎きつつ今年も暮れぬ露の命いけるばかりを思出に 俊恵 (新古今)

の松山 老の波越えける身こそあはれなれことしも今はすゑ ぬるかな 隆聖(新古今)



地に理想天に大日の眩ゆき世にはゆき希望の春を迎の初春 「小沢蘆庵(六帖詠草) しらみゆくおまへのほかげ法のこゑ心すみぬるけさ その岸 西行 (山家集) へぬ 初春をくまなく照らす影を見て月にまづ知るみもす 石川啄木(啄木歌集)

宿雪漫漫凝つて春ならず。

多年磨礱す吹毛の剣。 天公何の故に春を蔵せんと欲するや。

虚空を両断して春を顕露せん。

正受慧端(偈頌「歳首」) (宿雪漫漫凝不春 両断虚空顕露春) 天公何故欲藏春

歳初、歳始、歳首)〈全〉 【正月】(元月、祝月、初月、初春月、端月、初節、青陽